

令和7年 3月28日

関係者各位

世田谷区立京西小学校
校長 大島 出

次年度（令和7年度）に向けた改善方策

1. 次年度の学校経営の基本的な考え方

令和6年度は、コロナ禍が明け、一切の制限がない中で、行事を含めた教育活動を展開することができた。そういった状況もあり、引き続き、「学校が楽しい」「行事が楽しい」「友達となかよくできる」といった児童の評価は高かった。一方で、「自分にはいいところがある」といった自己肯定感や自己有用感は、他と比べて低い傾向が続いているが、「誰かのためにすすんで行動できる」項目では、一昨年度まで低い傾向にあった低学年でも数値の上昇が見られた。これは、縦割り班で行う全校遠足やそうじ、縦割り班活動の充実を図ったことで、その活動の中で得られた充実感が数値の上昇に少なからず影響を及ぼしているものと分析できる。

学習面では、校内研究でも取組を続けてきた国語科における「せたがや探究的な学び」が子どもたちにも浸透し、課題設定や課題解決・協働的な学び・振り返りといった学習プロセスが定着しつつあり、学年の成長段階に応じて学習課題を決めて学習を自分たちで進めていく流れもできてきている。ここに加えて、「非認知能力」に焦点を当てて、研究に取り組んでいく。冒頭に述べた、自己肯定感や自己有用感は、非認知能力における「自己肯定」の力である。非認知能力は、一朝一夕に身に付けられるものではなく、明確な育成の方法も確立していない。学習や生活の中で、長い時間をかけて培われていく力である。本校では、今年度、世田谷区教育委員会の指定する「非認知能力」の研究指定校としての研究を進めていく。ここ数年続けて取り組んでいる国語科の研究の中で、非認知能力という力にも焦点を当て、その伸ばし方、そして他教科への広がり、学習への効果について明らかにしていきたい。

また、「本を読むことが好き」という読書についての項目でも例年児童の肯定的意見が若干低め（70%前後）になっている現状が続いている。学校では、低学年から高学年まで、図書の時間があり、学習の中でも辞書や書籍を使って調べ学習をする機会も多くある。学校としては、引き続き図書の時間を確保し、書籍を使った学習にも積極的に取り組むことで、児童が本に触れる機会を確実に確保していく。その中で、生涯に渡って読書の習慣が身に付くよう、読書週間などのイベントでも本に親しむことができる工夫を続けていく。

学校は、引き続き児童が探究的に学習や運動、生活に取り組み、自己肯定感や

自己有用感を実感できるような教育活動の工夫に努め、「基礎基本や論理的な思考力・判断力・表現力を身に付け、生涯にわたって意欲的に学び続けるとともに、困難なことにも粘り強く取り組み、周りや社会のことを考えて行動できる子ども」を育てたいと考える。そして、その中での様々な人との関わりによって、多様性を認め、受け入れることのできる児童を育てたい。

そのために、教職員は、最善を尽くして職責を果たすとともに、教育活動の質的向上を図るよう環境を整え、意図的・計画的に実践を行う。また、学校は、保護者・地域の方々とも目標を共有し、協働して児童の育成にあたる。

2. 令和7年度の重点目標

- ◎思いやりをもち人の役に立ち、自己実現できる児童の育成
- 自ら探究的な学びができる子・論理的に思考できる児童の育成
- 健康で運動が大好きな児童の育成

3. 重点目標を達成するための基本方針

(1) 非認知能力の育成（忍耐力・自己抑制・協力・社交性・コミュニケーション・思いやり・自尊心など）

- 忍耐力・自尊感情・自己肯定感・自己有用感の育成

教師や友達からの価値付けを日常化する。人のために役に立つ喜びを感じられる教育活動を展開する。校内研究と併せて、区の研究指定校としての非認知能力の研究を推進する。

- キャリア教育の推進

キャリアパスポートの活用（目標・実践・振り返り）により夢や希望を育み、児童の自己実現を図る。コメントは、感想ではなく、具体的な視点をもって書くようにする。児童の成長を教員及び保護者の協力を得て認め励ますことで、様々な人の生き方から学んだことを自分のこれからの生活に生かす。自分で行動を起こしたことによって、よりよく変わったという経験を大切にし、価値付けをする。

- 人とのかかわりによる人間関係構築

クラス・学年交流、縦割り班活動・保育園との交流・地域・外国の人との交流などの機会を通して他者理解を深め、多様性を認める世田谷区の目指すインクルーシブ教育を進める。

- 言葉遣いの改善

通常の授業、道徳の時間や学級活動の時間を使つての指導や助言を行うことで、その良さを感じ、日常でも使っていく意欲をもたせる。

- 人権教育、道徳教育、特別活動のさらなる実践と充実。

低学年から人のために役に立つ喜びをもつことのできる教育活動を設定する。全校で集まる朝会を減らし、学級での活動時間を確保する。

(2) 基礎学力の育成と探究的に学ぶ授業の充実

○学年によってばらつきのある漢字・計算の定着（東京ベーシックドリルや Qubena・タブレット等の活用）と指導の工夫。

○校内研究の成果による「探究的な学び」のスパイラルな指導。読む力の育成。

○読書の推進（読書月間・読書記録・読書紹介・親子読書等）と環境づくり
特に、モジュールの時間に朝読書のできない高学年に読書の時間の確保。

○探究的な学びへのさらなる推進

「主体的・対話的で深い学び」となる授業改善の推進。自ら意欲をもって課題を見付け、交流しながら課題解決に向かう指導の工夫を行い、特に交流の視点を明らかにし、話し合い活動の充実に力を入れる。課題追究のツールを蓄積させ、方法の理解を推進する。ICTの効果的な活用による思考力・判断力・表現力の育成。

○学んだことを自分事として考えられる学習過程の工夫・改善

○STEAM 教育の充実

ICT 機器の積極的活用（タブレットによる Zoom・Teams 教員と児童、児童同士のロイロノート・プレゼンテーション作成等）とプログラミング教育の充実の継続。

○日本語や外国語への関心・意欲を高め、習得するための学習過程の工夫やそれらを生かした体験活動

(3) 健康教育の充実と体力向上

○体育朝会や集会、外遊びの奨励、なわとび・持久走の体育的活動の充実

○めあてをもった運動への取組と振り返り（健康・体力向上への意識）

体育の授業の時間の確保と生涯の基礎となる体力づくりを推進する。

○体力テストによる授業の改善。持久力、握力の増進。

○アスリート招聘による技能・意識の向上

○食育の充実（お弁当の日の取組等）

○「早寝、早起き、朝ごはん」の定着

(4) 家庭・地域との連携・協働

○学校運営委員会（3つのプロジェクト）の充実と地域運営学校の連携協力

○地域・家庭の人材活用、キャリア教育の推進。

○教育相談の充実（校内委員会の推進、SCの活用・関係機関との連携）

○地域に根ざした教育（地域学習、SDGs 等）と児童の地域貢献への意識向上

○防災に対する地域との連携（避難所運営）

（５）学び舎を起点とした連携活動の推進

コロナ禍が明け、実際に集まっていた活動の制限はなくなった。顔を合わせての取組の充実を図る。その中でも内容を精選して、効果的に計画を立て進めていく。

○「ようがの学び舎」での教員相互の連携・指導力の向上、校内研究への参加

○「ようがの学び舎」における教育活動の保護者地域への周知（ＨＰの活用）

○ 保小・小中連携による系統立てた学びや交流